



Rotary 第2760地区
犬山ロータリークラブ

■会長：原 正 男
■幹 事：安 田 一 生
■公共イメージ向上副委員長
： 関 矢 正 己

事務所／〒484-0061 犬山市大字前原字橋爪山 1-4 犬山カンツリー倶楽部内
電 話／0568-61-5219 F A X／0568-61-5523
U R L／http://www.inuyama-rc.org/ e-mail／info@inuyama-rc.org
例会場／〒484-0061 犬山市大字前原字橋爪山 1-4 犬山カンツリー倶楽部
電 話／0568-61.2281 毎週火曜日／12：30～13：30

第2909回 例 会 (R 5 . 3 . 1 4 火 晴 れ ※)

【 S . A . A . 担 当 例 会 於 : 大 縣 神 社 】

点 鐘 原 正男会長
R . S 我等の生業 四つのテスト
ビジター ☆大縣神社 祢宜 日比野 健(たけし)様
☆米山奨学生 黄 夢婷(コウ ムテイ) さん
幹事報告 安田 一生幹事

※近隣クラブはコロナ禍により、ほぼメークアップ受付を
されておられません(※3月はメークアップ不要)

☆3月例会について
例会変更が多く分かりにくい為、ご注意願います
・3月18日(土)東尾張分区 IM 10：00～14：00
(※3月28日(火)例会変更分) 於：名鉄小牧ホテル
・3月21日(火)法定休日
・4月4日(火)夜間花見家族例会 18：00～20：30
於：レイクサイド入鹿

出席報告(保浦博志委員)
出席率 100% 会員 51名 (*出席率は紙面での報告のみ)

ニコボックス(保浦博志委員長)
原 正男君 今年も大縣神社の梅を楽しめることを喜
んで。祢宜 日比野様、本日はお世話にな
ります。
(同文にて) 山田直廣君 安田一生君 鈴木一成君
牧野武彦君 恒例の梅見例会、多数の皆様をお迎えす
ることを喜んで。小生 伊勢の神宮崇敬会
役員会に出席の為、失礼を致します。
安達寛益君 梅見例会を開催できる事、祢宜 日比野様
の卓話を拝聴できます事を喜んで！大縣
神社の皆様にはいつも大変お世話にな
ります。どうぞ宜しくお願いします。
(同文にて) 藤井友喜君 福富孝弘君 保浦博志君
井川光雄君 稲垣圭次君 板津英基君
伊藤正久君 伊藤隆君 岩間信夫君
加藤浩一君 兒玉寿君 近藤斉宏君
近藤俊也君 真野健二君 松平實胤君
松山基邦君 小川宏嗣君 小川誠君
小川征一君 岡田雅隆君 奥村正幸君
大島匡博君 澤田禅君 関矢正己君
千田光範君 下平征司君 朱宮新治君
高橋秀治君 田中進一郎君 谷定貴之君
梅田佳和君 山根雄司君 安田新平君
吉田洋君



会長挨拶(原正男会長)



本日のお客様をご紹介させていただきます。
米山奨学生の黄 夢婷(コウ ムテイ)さんです。先週の土
曜日、安田幹事、梅田委員長と共に2年間お付き合い
させていただいた黄 夢婷さんの米山奨学期間終了者
歓送会に出席してまいりました。本日は、最後のご挨拶
となります。宜しくお願ひいたします。
もう一方は、本日の卓話をしていただきます大縣神
社 祢宜の日比野健様です。後程宜しくお願い致します。

本日は、方角のお話をさせていただきます。
令和5年は、癸卯(みずのとう)、四緑木星(しろくもくせい)
中宮
したがって五黄殺は西北、暗剣殺、暗闇で剣で殺さ
れるとすごく残酷な字を書きますが、今年は東南にな
ります。今年の2月の立春から翌年の節分まではこちら
らの方向に普請、改築、土木工事、長期の旅行は大凶
となります。西も歳破とってこの方向も良くありません。
宗教によってはクリスチャンの方などは、全く
気にされないようですが経営者の方は気にされる方が
多いように思います。

恵方(良い方角)は、南南東と他に360° 中半分は
良い方角があります。また個々人でも良い方向、そう
でない凶の方角がありますのでご興味のある方はお教
えします。もちろん暦でもわかります。信じない方も
もちろんあるかと思ひます。
私も商売上、病気をしてからはずごく気にするよう
になりました。

また、九星でも吉凶が変わります。私は九紫火星という星なので、昭和21年、30年、39年、48年生まれの方も同じです。今年は注意しながら慎重に過ごさなければなりません、

東の方向が大吉となります。孫達との旅行、会社の慰安旅行も東に行くことに決めました。また、いくら大きな神社、お寺でも悪い方向にお参りしてもご利益が少ないというお話も聞きました。そして恵方の神社仏閣のお参りをすると更なる良いことがあるそうです。

ですから私の会社から大縣神社さんは、最高の神様になりますので、ついでに参りは毎月もちろんですが時間がある毎にリハビリも兼ねて何うことが多くなりそうです。また、月や日にも東が大吉となる日がありますので特にご利益があると思います。



退会挨拶



○関矢 正己 君



失礼します。関矢でございます。今回転勤に伴いましてこの歴史ある犬山ロータリークラブを退会する形になりました。

この3年間、まさにコロナと共に犬山の地に赴任しまして、ロータリークラブに入会させて頂いて、非常に個性のある優しい方々、ご友人といったらあれですが、お近づきになれたことは非常に私の人生の中で財産になる3年間だったなということをおもひ起こしております。また非常に緩い人間で誰かが呑んでくれ工場長と言っておりましたが、決してそれだけではなく、しっかり犬山にも税金を落してお金を落して3年間過ごしてきたと思います。後任はまたご挨拶させていただきますが、今度は52という若い、若いと言っても52歳ですが、バイタリティ溢れる人間ですので是非犬山に入会して頂いて皆様とお仲間になれたら良いなと思っておりますのでこれからも宜しくお願い致します。

次は京都に行きますので、是非京都の方に来られる際はご連絡頂ければ良い店をリサーチしておきますので宜しくお願い致します。

○豊嶋 遼平 君



皆様失礼致します。明治安田生命の豊嶋です。3年前に歴史と伝統ある犬山ロータリークラブに入会させて頂きました。私は会社の都合もありコロナの対策上参加させて頂くことは出来なかったのですが、中でも入会させて頂いた時はまだ20代でしたが、多くのことを諸先輩方から勉強させていただいたと感じております。本当に皆様ありがとうございました。

この後、私は岩手に転勤ということになりまして、先程会長の最初のお話にあった通り、まずは悪い方角で良かったと安心しております。犬山に来る前には山形から来ましたが、また東北に帰るということになりました。少し雪深いところになりますが精一杯頑張っていきたいと思っております。

後任ですが私は苗字が似ていて申し訳ないですが、豊嶋の次はミノシマという者が後任となります。丁度昨日から国の方でもマスクの緩和があったと思いますが弊社も規制が変わると思いますのでまた後任についてもどうか宜しくお願い致します。

3年間どうもありがとうございました。



ロータリー米山奨学生 (黄 夢婷さん)



奨学金(3月分)を授与しました

◇黄 夢婷さん ご挨拶

皆様こんにちは。2年間本当に早いですね。今日は最後になります。本当に2年間皆様のお蔭で凄く成長できたと思います。多分もともとはあまり自信がなくて、苦手なことから迷わず逃げるタイプでしたが、こ

の2年間を通してそういうダメな自分と向き合う勇気が出来ました。



4月から山梨にインターンをしに行きます。自分のコンフォータブルゾーンから出て色々チャレンジしていきたいと思います。ずっと犬山に来て良かったと思います。これからも頑張っていきたいと思います。清里で大活躍しますから皆様遊びに来てください。

ありがとうございます。



その他委員会報告

◎親睦活動委員会(真野健二委員長)

＝夜間花見家族例会について＝

日時：4月4日(火)

例会 18:00～/家族花見会 18:30～20:30

場所：レイクサイド入鹿

家族登録料：5,000円

*送迎バス 犬山駅東口 17時出発

*お風呂入れます

◎ロータリー研修(情報)委員会(岡田雅隆委員長)

＝新会員研修会(入会4年未満対象)＝

日時：4月11日(火) 18:00～

場所：あじか

登録料：10,000円

※対象の方に本日ご案内配布

※送迎バス犬山駅東口 17:40 出発

◎次年度幹事(小川 誠君)

☆23-24年度合同委員会ご案内(※全会員対象)

<クラブ管理運営戦略委員会系>

日時：3月14日(火) 18:00～

場所：大安

会費：10,000円

<奉仕プロジェクト委員会系>

日時：3月28日(火) 18:00～

場所：大安

会費：10,000円

*バスをご利用される方は両日ともに
17:30 犬山駅西口出発

☆23-24年度地区研修・協議会

交通及び懇親食事会のご案内

日時：4月9日(日)

受付 10:30～/本会議 11:20～/

昼食 12:00～/特別講演 13:00～/

分科会 14:05～/本会議 15:55～16:30

場所：名古屋マリオットアソシアホテル

※各自現地へご移動下さい

※犬山発名鉄電車のご案内。下記の時間を参考に
ご利用下さい

<参考>犬山駅発 10:09 準急(中部国際空港行)

→名鉄名古屋駅着 10:44

名鉄名古屋駅より徒歩3分

＝懇親食事会＝

同日 16:45～

場所：「マスタードリームハウス名古屋」

名古屋市中村区名駅 1-1-3 JR ゲートタワー13F

☎052-756-2571

会費：5,000円(*当日集金)



S. A. A. 担当例会

卓 話

☆大縣神社 祢宜 日比野 健 様

「伝統文化の継承について」



本日は犬山ロータリークラブ様の例会に当大縣神社を会場として開催されますこと誠に名誉な事であり、有難く御礼申し上げます。然し乍ら、当神社宮司の牧野は神宮諸会議の為留守を致しており、代わってご挨拶をさせて戴きます事先ずもってお許し賜りたく存じます。

一日一日と陽の光の温もり感じられ、桜だよりが暖かい南の風にのり聞こえてくる頃となりました。残念乍ら当社の梅園の梅の花は、春の陽気に負けてしまい殆ど散ってしまっておりますが、遅咲きの梅が皆様のお越しをお待ち致しておりますので、後ほど是非ご観賞いただければ幸いです。

本日のテーマは「伝統文化の継承について」でございます。

伝統とか歴史とかと言う言葉を聞くと、なにやら古い物とか昔のことなどと云うイメージがありませんか。

然しながら伝統、文化は、過去から現在に伝わっているもの。すなわち、古くって新しい物だと思います。

スペインのバルセロナに、サグラダ・ファミリアという有名な大聖堂があります。1882年に世界的建築家ガウディが建築を始めてより141年、いまだ未完の作品と云われております。生前、ガウディが実現できたのは、地下聖堂などの全体の20パーセント余りで、その後弟子たちが建築に携わって現在に至っておりますが、いつ完成するか分かりません。

今、完成と申し上げましたが、日本では、古来より家を建てるにあたり様々な「まつり」を行ってきました。建物が完成すると、「竣工祭」「竣工式」を行い、土地や建物の神様に「おかげさまで無事に建屋が出来ました。これから使わせて頂きますので、宜しくお願ひ致します」という様な趣旨のおまつりをしますが、なぜ「完成祭」「完成式」とは言わないのでしょうか。

「竣工」とは、建築工事が終わったことを意味する言葉です。だったら完成と同じではないかと思われるかもしれませんが、それは違います。

建物は住み続けることで、完成に近づいて行くという考えが日本にはあるからです。

例えば飛騨の合掌造りを思い浮かべて下さい。外観は茅葺の三角屋根の独特な雰囲気建物の建で、内部は飴色に輝く光沢のある大きな柱と梁が目浮かびます。

この光沢の美しさは、最初からあったものでありません。住む人が囲炉裏で煮炊きをするうちにいぶされ、また何代にも渡って、手入れをして磨き続けた結果であり、建築にとっての竣工は完成ではなく、家と共に新たな生活をするという始まりを意味し、むしろ終わりではなく、始まりを意味する言葉ではないかと思ひます。

大縣神社には、寛文元年(1661年)の建物を始め様々な年代の建造物がありますが、これらの建築を陰で支える人を宮大工と云います。

この宮大工は、明治維新までは寺社番匠(じしゃばんしょう)と言われておりました。神仏分離令後は、寺という字は使われなくなり、社大工ではおかしいということで、宮大工と呼んでおられます。今日においては、神社だけでなく寺院についても宮大工が造営し、「神社だけつくる」「寺院だけつくる」という宮大工や棟梁、社寺建設会社はほとんど見当たりません。

社寺建築の代表的なものに、聖徳太子(しょうとくたいし)が建立した「法隆寺(ほうりゅうじ)」があります。法隆寺は、推古(すいこ)天皇15年(605年)に創建され、その64年後に火災で焼失し、再建されたとされています。それから数えてもすでに1300年が経過しており、世界最古の木造建造物です。これだけの年月を経てなお、当時の姿が残されているのは、奇跡であります。

法隆寺と言えば、何とんでも「五重塔」に触れないわけにはいかないでしょう。五重塔の起源は、インドで「ストゥーパ」と呼ばれる仏塔です。ストゥーパは、仏舎利(釈迦の遺骨)を納める施設であり、五重塔においても、塔の中心にある「心柱」という太い柱を支える礎石のところに、仏舎利が納められています。つまり、この仏舎利の上に立っている心柱こそが五重塔の本体であって、私たちが目にする外観の部分は、その覆屋にすぎないということです。

そして、塔が高くつくられている理由は、遠くからでも、この仏舎利を拝めるようにするためであると言われています。

さて、法隆寺の五重塔は高さ31.5メートルで、およそ10階建てのビルの高さに相当します。日本は地震大国で、1300年の間には大きな地震が何度も襲っている

にもかかわらず、一度も倒壊することなく今日に至っています。なぜ地震に強いのでしょうか。その鍵は「柔構造」にあります。塔を構成する木材は、釘を使わず、木材を交互に組み合わせることで、結合されています。つまり、固くピッタリと結合されているのではなく、柔軟に組み合わせられています。そのため、ギシギシと揺れることによって地震の力を吸収できるのです。これは、地震対策、風対策として、当時の大工によって考案されたものだと思います。また、塔のいちばん上から吊り下げられている「心柱」が、今でいう制振装置の役割を果たしているからだとも言われています。この心柱構造は、2012年に竣工した「東京スカイツリー」にも“導入”されています。鉄骨で組み上げられた塔の中央部には直径十メートルほどの空洞があり、ここに鉄筋コンクリート造りの心柱が吊るされています。この柱がおもりとしてあることで、タワー全体の揺れが最大で約四割軽減されると言われています。この構造は最初から五重塔をまねたわけではなく、スカイツリーにふさわしい制振システムを追求した結果、期せずして五重塔と同じ構造に辿り着いたとのことですから、驚きです。

また奈良には、世界最大の木造建造物もあります。それが「東大寺大仏殿」です。東大寺の大仏は、聖武(しょうむ)天皇の発願により天平15年(745年)に造営が始まり、7年の歳月をかけて天平勝宝4年(752年)に完成しました。ただし、現在、私たちが目にする大仏殿は、残念ながら創建当時のものではありません。東大寺は二度にわたって焼失しており、現在私どもが目にするのは、宝永6年(1709年)に建造された大仏殿です。高さは約48メートル、幅は約57メートル、奥行きは約50メートルの世界最大級の木造建造物ですが、天平時代の創建当時の大仏殿はもっと大きいものでした。横幅は約86メートルで、現在より約1.5倍も長かったとされています。1300年もの昔に、現代においても世界最大級となる木造建造物を建てていたというのは、驚きに値します。とはいえ、当時の姿をそのままに今日に留めているのは、これまで100年から200年に一度、解体を伴う大がかりな修理がなされてきたことによります。

日本の木造建築は、木材を組み上げていくとき、あらかじめ、将来にその逆の順番で解体し、修理することができるよう、設計・施工されています。

伊勢神宮の式年遷宮と同じく、永遠の継続を意図した智慧がそこに込められているのです。

木造建築は、百年以上の年月を経ると、地盤沈下や地震、風雨の影響、あるいは木材のたわみにより、構造がゆがんできます。まずは小規模の修繕として、屋根瓦をすべて降ろして柱などを補正し、もう一度、瓦を葺き直します。これを何度か繰り返してもなお、建物全体の歪みが目立つようになれば、次は大規模な修理として、すべてを解体します。そして、基礎と礎石の状態を確認し、柱の根腐れがあれば、その部分を新しい木材に継ぎ足すなどして、元のおりに組み直すのです。こうした大規模な解体修理を行うことで、建物としての命をつないできたのです。

大工の棟梁によると、人は木を切ってしまったら、木は死んでしまったと思うが、立っていた年数切られてからも生きています。木がヤニを出したり、次第に屋根の反りが戻ったり、鉋をかければ今でも品のいい檜の香りがする。この様な木ですから、この寿命を全うさせ生かすのが大工の役目だといいます。千年の木でしたら、少なくとも千年生きるようにする。そのためには木をよくよく知らなくてはならない。使い方を知らないのではなりません。

木が生きてきただけの耐用年数に木を生かして使うというのは、自然に対する人間の当然の義務です。その心は神道の精神の中にいきづいており、木を切ったら、先と基を残し、真ん中だけを頂く。つまり木を切ったら、その株に木を植えてやる。

木は大自然が生み育てた命です。木は物やありません。生きものです。人間もまた生きものです。木も人も自然の分身です。この物いわぬ木とよく話し合っ、命ある建物に変えてやるのが大工の仕事といいます。

木の命と人間の命の合作が本当の建築です。古代の人はこのことをよく知っていました。

檜の命の長さを知り、それを生かして使う知恵を持っていたのです。檜のよさと、それを生かして使った先人の知恵の合作が、世界最古の木造建築として今もなおその美しさを崩すことなく現代に姿を伝えている法隆寺です。法隆寺はそのことをよく私共に教えてくれていると思います。

大縣神社にも先ほど申しましたように、江戸から平成迄の時代の建物が境内の雰囲気をも崩すことなく建立しております。皆様がいらっしゃるこの建物は、平成20年に竣工した建物ですが、玄関の唐破風は、明治42年官幣大社熱田神宮参集所として、19号線を隔てた熱田区中瀬町に建立されました。昭和20年、先の戦争により荘麗をつくした諸施設もほとんど焼失致し、唯一残った建物です。その後27年に神宮境内に移築され、熱田神宮宮庁として戦後の復興に寄与して参りましたが、現在の熱田神宮会館建設に伴い、篠田宮司様の厚意により、大縣神社参集殿として譲渡を受けました。当社に於いても長らく各種会合、結婚披露宴会場として活躍した建物ですが、南側が山であり、日が当たらない、山からの水で土台が腐り、瓦の重みで南に傾き、残念ながら解体撤去しなければならない状態になりました。されども戦後の熱田神宮また大縣神社を支えてきた貴重な建物であるため壊してしまうには、忍びない。何とか残せないかということで、本体から唐破風部分を切断し参道を横切り約50メートル程曳家に引かせ、3回の移設を経て4回目のお役目として大縣神社参集殿玄関として威風堂々とした姿で建立しております。

お帰りの際、是非ともご覧いただきたいのですが、一抱えもある大きな柱、黄金色に輝く格天井、木のしなやかな特徴と美しさが表現されている破風、組み物どれをとっても芸術品であり、建造物の美しさ、またその建物の歴史が柱についている傷からも感じられます。

今、このような古い建物の殆どは寺社仏閣にしか残っておりません。グローバル化により日本らしさや固有の伝統、文化、人間性までもが失われようとしております。その砦が神社やお寺でありそこに奉仕する者の役目だと思います。それと同時に、伝統や文化、歴史は、過去であり、それを引き継いだ現代であり、また未来であるといえます。今を生きる私どもは、次代にこうした大和民族の誇りを伝える使命があると思います。

拙い話でありましたが、これで私の話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。



= 会長謝辞 =

貴重なお話ありがとうございました。私も建築に携わる者として木は生きているモノというお話を再確認させて頂きました。また先ほど挨拶でも申し上げました様に、なんとも楽田の地でランドマーク的な存在が大縣神社様です。地域の皆様と共に参りに来たいと思います。今後とも宜しくお願い致します。



ご報告

○犬山ライオンズクラブ 結成60周年記念式典

3月19日(日)名古屋マリオットアソシアホテルにおいて犬山ライオンズクラブ結成60周年記念式典及び祝宴が開催され、原会長が出席いたしました。



* * * 梅 * * *

